



## 自衛官志望者が「水中処分母船」を見学



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・根本博之<sup>1</sup>等陸佐）は、7月15日（土）、「第17回踊夏祭」のために大井川港（焼津市）に入港した、海上自衛隊の「水中処分母船3号」の特別公開に協力した。

この特別公開は、将来自衛官を目指している若者を対象に実施され、県内各地から21人が参加した。

最初に同船の運用について説明を受けた後、船橋において航海科隊員の仕事のひとつでもあるラッパ吹奏を見学・体験した。また、不発物処理班の隊員が日頃から任務で使用している処分艇（船外機付ゴムボート）に体験搭乗し、夏を水しぶきを上げながら走る爽快感を味わった。

特別公開の最後には隊員との懇談があり、海上自衛官を選んだ理由や仕事のやりがいなどについて質疑応答が盛んに行われ、参加者はこの仕事の奥の深さや魅力を感じている様子であった。

静岡地本は、今後もこのような現場を体験出来る機会を積極的に活用し、若者に自衛隊の魅力をより深く知ってもらうとともに、自衛官を目指す志願者の支援に努めていく。

## 「予備自衛官補辞令書交付式」を実施



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・根本博之<sup>1</sup>等陸佐）は、7月15日（土）、静岡地本本部庁舎（静岡市）において、平成29年度予備自衛官補の「辞令書交付式」及び「制度説明会」を実施した。

平成29年度採用者のうち、技能公募2人、一般公募8人の計10人が参加し、辞令書交付式では本部長から一人一人に辞令書が手渡され、続いて全員で力強く予備自衛官補としての服務の宣誓を行った。

根本本部長は「教育訓練を通じ、自衛隊についてより理解を深めてもらい、予備自衛官補の任務を全うし、一人でも多く予備自衛官や常備自衛官を希望することを願う」と激励した。

交付式終了後は、実際の訓練映像等を見ながら改めて予備自衛官補制度について理解を深めるとともに、実際に予備自衛官補から予備自衛官となった隊員による体験談の講義を行った。

今回講師を務めたのは、静岡地本で非常勤隊員として勤務している松澤 繭美予備陸士長。「初めは予備自衛官になるつもりはなかった」と自らの志願理由を赤裸々に話し参加者を和ませると、実際に訓練招集で使用した持ち物を示しながら予備自衛官補として体験した実情を語った。

行事終了後、参加者からは「直接経験者の話を聞いて、具体的に訓練等のイメージができたので不安がなくなった」「辞令書を交付され、予備自衛官補の自覚を持つことができた」といった率直な感想が聞かれた。

静岡地本は、今後も予備自衛官等制度の周知に努め、実際に教育を担当する部隊と連携して一人でも多くの予備自衛官補が予備自衛官として任用されるよう引き続きサポートに努めていく。